

## 第7回 双葉町復興推進委員会 議事録

- 日 時 : 平成26年5月29日(木) 午後1時00分～4時30分
- 場 所 : 双葉町いわき事務所 2階大会議室
- 出席者 : 双葉町復興推進委員会委員  
事務局(双葉町復興推進課)

(参照: 第7回 双葉町復興推進委員会座席表)

### 1. 開会

#### 【事務局 細澤 界】

改めまして今日は御苦勞様でございます。復興推進課の細澤でございます。それではさっそくですが本日の会議を進めてまいります。この後は間野委員長に進行をお願いしたいと思います。

### 2. 議事

#### (1) ワークショップ

テーマ: 町民の今後の暮らしと町の復興について

#### 【間野 博 委員長】

皆さん、こんにちは。御苦勞様です。この間の第6回の委員会になりますが、その時に、ここからは第2期に入って、一つは長期ビジョン、長期的な町の復興の在り方についてというテーマと、それと前回から引き継いでさらに、町民の今後の暮らしとか、町民のコミュニティをどういうふうに維持していくかという2つのテーマについて、第2期さらに提言をつくっていこうということになったわけですが、前回の委員会でも一つ出てきたのが、この座談会形式というもので。グループに分けて、それでかつそれぞれの座談会形式で意見を出していくというようなやり方を今回やろうということになりました。委員会の形式としてはちょっと特殊な形なわけですが、ただ通常の委員会ですと、これまでの委員会でもよくお分かりのように中々皆さんのご意見をちゃんと聞くだけの時間がありません。それから、一応発言されても十分にそれぞれの委員の方の意見が十分に発言できるかというと、それも時間の都合だとか何かで中々十分に発言する時間がないわけですね。で、こういうふうに1つ1つのグループに、最大6人、最小4人ですから、少人数にすることによって皆さん意見を言う時間が十分にとれるということと、それから、意見の出し方についても、1つだけ言うんじゃなくて、言いたいことを余すことなく出していただくということで時間もかなりたっぷりとして、それで皆さんの意見を漏らすことなく出してもらうという、そういう場として、これワークショップっていう言い方をしますけれども。そういうやり方をとろう、ということです。ずっとこの形式でやるというわけではなくて、そういう皆さんの意見を余すことなく出していただくという機会をここ2、3回はやっていこうということで、今日はその第1回ということで、こういう形式、経験されている方も経験されていない方もいらっしゃるかと思いますが、まずは今日、とりあえず幅広く色々な意見を出していただくという場にしたい、ということを考えておりますので、よろしく願います。この座談会形式で意見を出していただいて、それでまとめていこうとすると専門家が必要でして、中々こういうことを素

人、僕なんかがやろうとしても中々出来ません。それで今日は、その為のこういうワークショップのプロの人達にサポートしていただいて、議論を進めていくというような形にしようと思っております。後は、金子先生以下ワークショップのコーディネーターとファシリテーターの方にサポートしていただくということになるので、よろしく願いいたします。

という趣旨ですので存分にご意見を出していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

それで、事務的なことなんですけど、この委員会は委員会として本来は公開する、ということになってます。今日ご覧になったら分かるように、マスコミ等がありません。それは意図的にちょっと外しました。皆さんの意見を存分に出していただいて、3時くらいから今度は皆さんそれぞれのテーブルでまとめたものを発表していただきます。その後、発表していただいたものを皆さん見ながら全体の議論をするということになるのですが、その段階から入ってもらいます。したがってここからは公開する。発表するグループのテーブルごとの発表するということからぞろぞろと入ってこられるんですが、ここからは公開、ということにしたいと思っておりますので、そういう形でよろしいでしょうか。

そういう形で進めたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。ここから町の方から本日の出席者のご紹介等、やっていただくことにします。お願いいたします。

#### 【事務局 細澤 界】

はい、では引き続きまして今回ご出席いただいている出席者の方はお手元の資料の方に記載されております。欠席者も数名おりますので、この点はご了承願いたいと思っております。今回、皆さんテーブルという形でグループ分けをさせていただきました。グループ分けにあたっては資料2という形で分けさせていただきましたけれども、グループ分けにあたりましては、前回の会議の時にも議論には出てたんですけども、職業別、あるいは年代別と形で分けてしまうと、偏りが出るのではないかなというご指摘がありましたので、今回は申し訳ないんですが、委員の皆さんの従来使っている名簿を上から順に4つのグループに分けさせていただいた、という形をとらせていただきましたので、ご了承願いたいと思っております。

なお、先ほど委員長の方からの説明もありました通り、町長と町の幹部職員、並びに学識経験者、あるいは国の復興庁の職員、福島県の職員の皆さん方につきましては、議論をとりまとめをしていただいた発表の段階から参加していただくような形に今回はさせていただきたいと思っております。あわせて、マスコミ関係の訪問についても、発表の段階からという形で考えております。あとこちらの方の脇の方に、おるんですけども、冒頭の取りまとめの方で町の方で頼んでいる委託業者の方が、冒頭のみ入っておりますので、この点はご了承願いたいと思っております。では、さっそくワークショップの方に進めていきたいと思っております。今回進行にあたりましては、ファシリテーターの金子先生の方をお願いしておりますので、これからについてはそちらの金子先生の方、よろしく願いしたいと思います。

#### 【ファシリテーター 金子 和夫 氏】

皆さん、こんにちは。このワークショップをお手伝いするために私共、双葉町サポーターというチームをつくり3回お手伝いさせていただきます。昨年の町民会議では9回、各地をまわって、ワークショップをお手伝いさせていただきました。最初に簡単に自己紹介させていただきます。私は金子和夫と申します。住民参加型の町づくりのワークショップの企画や運営をお手伝いして

います。よろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

林聖子と申します。昨年未行われた町民会議の方でもお手伝いさせていただきました、お久しぶりですという方も何人かいらっしゃるんですが、今日もどうぞお手柔らかにということでもよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 上田 真弓 氏】

はい、皆さんこんにちは。上田真弓と申します。去年からの委員会の後ろの方で、毎回議事録を裏の顔としてとっておりました。今日は天気もいいことですし、表の顔として頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 家長 千恵子 氏】

こんにちは。家長千恵子と申します。私は去年の郡山の町民会議でお手伝いをさせていただきました。福島はあと、広野町の町づくりのお手伝い等もさせていただいておまして、今日は皆さんと意見交換がしっかりできるように進行させていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 木山 侑香 氏】

こんにちは。木山侑香と申します。私は福島大学を卒業して、今もまだ学生をやっています。去年のワークショップにもお手伝いとして参加させていただきました。今日もよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 原田 知佳 氏】

こんにちは。原田知佳と申します。去年の町民会議では、いわきと東京の会場でワークショップのサポーターとして参加いたしました。今日もどうぞよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 金子 和夫 氏】

以上、我々がお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

さっそくワークショップといったこのコンビなんですけれども、さっそく進めていきたいと思っています。今日は皆さん、とってもいいお天気の中、ありがとうございます。今日は、大安吉日で、そして肉の日なんですね。29日ですね。皆さん、今日はいっぱい意見を出していただいて、そのエネルギーを夜、肉で消化してください。それではワークショップの方進めてまいりたいと思います。ワークショップ、先ほど間野委員長にもお話いただきましたが、座談会という形式で進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。その座談会、今日のワークショップ、どんな目的でどんなことを話し合っ、そしてどんな進め方をするのかというのをちょっとご説明したいと思います。

最初、今日の目的、皆さんでお話をしあう座談会の目的を、金子先生、お願いします。

【ファシリテーター 金子 和夫 氏】

今日は復興推進委員会のワークショップということになりますけれども、これから今日を含めて3回会議を行います。テーマは2つあります。「双葉町の将来を見据えた復興の在り方について」として将来像を語るということと、もう1つは、「町民の今後の暮らしと町民コミュニティの形成について」です。現在の生活をより良くしていくための課題、こういう2つのテーマをこ

の3回の中で話してまとめていくこととなります。この話し合いの結果は、特に将来を見据えた復興の在り方につきましては、秋に中間提言として一旦取りまとめられまして、この年度末までに、双葉町復興まちづくり長期ビジョンということで長期の計画に反映されます。

もう1つの、町民の今後の暮らしとコミュニティの形成につきましては、来年の復興まちづくり事業計画(実施計画)、来年実際にやることに反映されるということです。ですから2つの議論をして、年度末には2つの計画ビジョンに反映されるということになります。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

ありがとうございます。3回の流れは今のよう形なのですが、今日3回を通して、特に本日もなんですが、皆様にお話、意見を出していただく内容なんですが、こちらの方、見ていただけますか。こちらについて金子先生、お願いします。今日のテーマですね。

【ファシリテーター 金子 和夫 氏】

今日は、2つのテーマがあるんですが、まず一番最初にテーマ2として、「町民の今後の暮らしと町民コミュニティの形成について」という現在の課題について話していきたいと思っています。昨年、町民会議でも多数の意見が出されまして、この復興推進委員会に報告されて、皆様はまた議論をされたと思うんですね。1つ1つ進んでいるもの、いや、少しまだ留まっているもの、色々あるかと思うんです。それをもう一度ここでしっかり議論をして、この今後の暮らしにどう良くしていくのかというのを議論していただきたいと思っています。例えば、復興公営住宅の準備が着々と進んでおりますけれども、この公営住宅を核とした町民のコミュニティをどういうふうにつくっていったらいいだろうかと、町民会議でも、支えあいのこととか、交通の足の問題とか、この遠隔地の方が訪れた時に宿泊機能どうするのか、色んなご意見がございました。こういった公営住宅を核とした暮らし、課題とか、例えば若い世代を含めた町民のきずなをどう保っていくか。遠隔地にいらっしゃる方もいる、こちらのいわきにいらっしゃる方もいる、分散していますよね。色んな広報紙とかインターネットとか手紙とか電話帳をどうしようという議論もありました。もう一度ここをしっかりと議論、意見をいただければと思っています。それから、避難先での生活が長期化しています。この中で、生活の安定をどうしていくか。長くなれば新たな問題も出てきているんじゃないかと思うんですね。こういったことを上げていただきたいと思っています。今日は前半、このことについて意見を伺います。次に後半に、将来を見据えた復興の在り方について議論いただきたいと思っています。

2回目、3回目はこの将来の姿が議論の本題になっていきます。例えば、双葉町の夢ある復興の姿、新しい町づくりとはどのような姿なのか、色々中間貯蔵施設の課題とか、色々あるんですが、そういうことも含めて、将来について今、皆さんが語って、町の姿を明らかにしていくことがすごく重要だと思うんですね。それから2番目、子供達に引き継ぐ双葉町の未来とは。例えば、若い人、って考えた時に働く場とか、教育の場とか、文化の継承とか、色んなことがあると思いますね。それからまた、双葉町から何を後世に伝えていくのか、とこういった歴史とか文化とか、それからこの事故をどう克服していったとか、色んなことがあると思います。これはあくまで例示でございますけれども、将来を見据えた復興の在り方についても、ご意見を出していただきたいというふうに思っています。

今日はちょっと2つあるんですが、ご意見を出しやすいように私達も工夫していきたいと思っ

ています。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

まずは皆様ないしは町民の皆様が抱えている課題と言いますか、不安なこと、悩みなんかを皆様に教えていただきたいな、と思っております。皆様が代表の声だとして教えていただきたいな、と思っております。それを踏まえて、どんな未来にしていこうかというのを、皆様のご意見、お考えをお聞かせいただければと思っております。

その座談会ワークショップを、進める上でご存知の方も多いかと思うんですが、ちょっとしたルールがございます。ちょっと見難いんですけどすいません。ワークショップとはどんなもので、どんなルールのもと行っていきましょうね、というのを皆さんに説明させていただきたいと思えます。金子先生、お願いします。

【ファシリテーター 金子 和夫 氏】

ワークショップっていうのは、聞き慣れない名前かもしれませんが座談会ということでお聞きいただければいいと思うんですが、出来るだけ大勢の方に、沢山の意見を出していただいて、それをまとめて計画に反映していくのに有効です。もうすでに各地で使われていて、その有効性が認められています。すでに町民会議で一緒させていただいた方もいらっしゃると思いますが、初めての方もいらっしゃると思いますのでワークショップで大切にしたい基本的な姿勢ということについていくつかご紹介したいと思います。

まず1つは、参加者一人一人の意見を尊重するということです。世の中には色々な考え方がいらっしゃる。それはそれぞれのお立場がありますので尊重しましょうということですね。こちらでどっちが正しいんだ、というのを議論する場ではないということが1つあります。それから、前向きな提案を認めて、応援していきましょうということです。1つ1つ乗り越えていく、未来につないでいくということで、大変困難な課題もありますけれども、是非前向きな提案を沢山出していただければと思っています。それから、住民相互の意見のやり取りを大切にする、ということ。例えば一般的な会議ですと、行政の方が資料を用意して、説明して、それに対して委員さんが質問をします。そうして、行政が対応していく、ということになりまして、どうしても住民は受け身になってしまいます。今回は、ワークショップでは、皆さんがどんどん意見を出して、皆さん同士で色々な意見があるんだなということを認め合いながら、それをまとめていくということを大事にしたい。住民同士で刺激しあったり、啓発しあったりするということですね。それから、互いの立場を超えて学びあう。ちょっと同じですけども、「あ、こういう考えもあるんだな」とか、「それはいいな」というふうに、メンバー同士で刺激しあっていただきたい。それから、全員参加で一緒に共同作業に取り組む。ここに紙とかペンが置いてあるんですが、是非皆さんが、手を動かして、そしてこの白い紙に、どんどん意見を書いてまとめあげていただきたいと思えます。最後には皆さん一人一人に感想を發表していただきますので、自分達でこれをまとめるんだということをお願いしたいと思っています。様々な価値観、改めて申しますけれども、色々な意見を沢山集めることが目的で、取捨選択とか、整理、淘汰することが目的ではございません。具体的にワークショップを進めていく上でのお約束、是非守っていただきたいことなんですが、自己紹介でお互いをよく知ること。これ大事なんです、意見が正しいかどうかということと、相手に好意を持つかということっていうのは結構実は関係があって、最初、印象が悪

い人の意見というのは聞きたくないとなりやすく、最初の印象がいいと、あ、いい人だなといってその意見も、すっと聞けるというのがあります、ワークショップっていうのはまず、人としてお互い自己紹介をして、いい雰囲気、スタートしたい。ですから、簡単ではございますが一言自己紹介とか、私達サポーターも仲間に入れていただいて、和気藹々とやりたいと思っています。それから、他人の意見を否定しないこと、これは是非お願いしたいと思います。それから、意見はカードに書きましょう、ということですね。実はとてもいいことをおっしゃっている方がいるんですが、滔々としゃべっていて、誰も書いていないのがよくあるんですね。もったいないですね。私共も手伝いますが、是非紙に書いて、残していただきたい。だいたいこういう作業をやると、1時間で意見が5、60個集まります。今日4グループですから2、300の意見が出るんですね。行政が用意していただく資料は大変な情報量がありますが、一方こういった住民の皆さんが1時間か1時間半で意見を全員が出して整理すると、これもまた大変情報が集まりまして、行政にとっても貴重な資料になります。それから、細かいことですが、1つのカードには1つのことを書いてください。カードは必ずお一人ずつ読んでいただいて、その時は皆さんで聞いていただいて、なるほどと、こういうことかと、Aさんの意見5つ聞きましたと。次にBさんの意見5つを聞きましょう。そういうふうに進めていきます。そして、紙の上にカードを並べて、グループ化して、タイトルをつけて、見やすくするというのをやります。最後に、発言時間は平等にお願いします。時間は限られておりますので、おひとりずつの時間は平等に使わせていただきます。話が長い方については、私の方からちょっとその辺で、ということで、切り上げをお願いします。他の方の時間を平等に使っていきますのでよろしく願います。

これがワークショップをうまく進める為のお約束ですので、是非ご協力をお願いします。

**【ファシリテーター 林 聖子 氏】**

昨年末ご参加された方はよくご存知かと思っておりますので、是非リードをしていただければな、と思っております。前段は公開されないということですので、皆さん忌憚のない、ご意見を心残り無いように、沢山出していただければと思います。

今日の1日の流れですね、ご説明させていただきます。

**【ファシリテーター 金子 和夫 氏 氏】**

僕の説明はこれで最後になりますけれども、今ワークショップの説明をさせていただいています。これが終わりましたら、各グループにサポーターが1人から2人ずつ入りますので、サポーターを入れて改めて皆様、簡単な自己紹介をお願いします。お名前とか、今日の会議の臨む意欲とかを一言、お願いしたいと思っています。それが終わりましたらワークショップに入ります。まず、テーマ2についてですね。皆さん、1人ずつ、1人2、3分意見をいただきたいと思っています。全員で話してみましよう。話が一通り聞いたら自分のアイデアをカードに書きましょう。その時には黙って書きましょう。世間話をして書かない人がいますが、カード作りにちょっとその時は集中していただきたいと思っています。次に、今度はもう一回テーマ1についてカードを書いてみましよう。あるいは話してみましよう。将来の姿どうなの、意見交換をしてカードに書いてみましよう。そうすると、1人10枚位書いていただくことになります。それを、私の10枚を読み上げますよ、聞いてくださいね、例えば、何々何々、こういうふうに取り上げます。そうする

とサポーターが手伝って、この白い紙の上に、「あ、これは生活の課題だね」、「あ、これは交通の課題だね」、というふうと一緒に整理していきます。皆様のカードがそうしますと、4、50枚その机の上に、ある程度グループに分かれて並ぶようになってまいります。それを皆さんと一緒に見て、小グループの見出しを付けましょう。例えば、後世に、「子供達に伝えるために〇〇」、とか、そういう見出しを付けましょう。最後に私達の模造紙1枚を表現したメッセージ、タイトルを付けて完成です。これを14時50分まで。今から1時間20分ございますね。進めていきたいと思えます。

14時50分に休憩をとっていただいて、今、お茶もまた用意いたしますので。それから、レイアウトを一部変えさせていただきます。15時から、町長以下、町の職員の方も入っていただき、皆様の発表になります。グループごとにこちらに前に出てきて模造紙を発表し、参加者の方には、私はここが主張したかったという一言コメントも全員にいただきます。一通り全員、4グループの発表が終わりましたら、町長以下、町の方とそれから皆さんと質疑をしていきたいと思えます。

このような形で16時20分まで質疑を行いまして、次回の連絡事項を確認して、閉会になります。16時半が終了でございます。ちょっと長丁場なんですけれども、よろしくお願ひします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

「長いなあ」といった感じだと思うんですけども、皆さん頑張りましょう。だいたいワークショップの流れは分かったと思えます。皆さん大丈夫ですよ。これやっていけば分かりますので、何か質問等ありましたらサポーターの方にその場でお願いいたします。

じゃあサポーターの担当をお知らせしますね。Aの場所は木山さんと原田さんですね。Bチームですね。Bチームのところは家長さんが、家長が入ります。Cが上田の方が入ります。Dの方は私の方が入りますので、よろしくお願ひします。

ではそれでは始めていきましょう。サポーターの方々、お願ひします。まずは自己紹介の方からお願ひします。

## (2) ワークショップのグループ成果の発表と全体討議

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

それでは皆さん。お待たせいたしました。これから先程のワークショップの発表を行いたいと思えます。各チーム白熱いたしまして、特に私のDチームは遅れましてご迷惑をおかけいたしました。それでは皆さんの発表をしたいと思えます。Aチームからでよろしいですかね。Aチームの方からお願ひします。まず、流れの方を説明しますね。発表の時はチームの皆さま全員に前に出てきていただきます。自分たちのチームの模造紙のところに立っていただいて、代表者が発表をしていただきます。代表者は5分を守っていただいて、5分も話すのかよという感じなんですけど、5分って短いんですよ、結構。5分でお話していただきまして、その後、参加者皆さまの一言コメントですね。ここだけは強調したいということをお1人ずつお話しただいて、それは大体1分くらいずつがいいかなと思えます。お話しただいて終了という形になります。発表者方は、4分たったら「チン」という音がしますので、「1分しかないんだ、あと」ということでまとめに入ってください。終わりましたら、「チンチン」という音が鳴りますので、速やかに終わらせて下さい。ということで始めていきましょう。よろしいですか、皆さん大丈夫ですかね。

D チーム最後ですからね。皆さんの見て真似ていただければと思います。A チームから行きましようか。A チームの皆さん前の方にどうぞ。町長と間野委員長に関しては、皆さんの発表が終わった、全部終わったところで感想をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

【伊藤 哲雄 副委員長】

私 A チームの伊藤哲雄と申します。お父さん役の川原光義です。お母さん役の福田英子さんです。娘さんの中谷博子さんです。サポーターの木山さんと原田さんです。よろしくお願いします。A チームの方では、町のコミュニティということで1つのテーマ皆さんと話ししまして、今を見つめて未来を語るということで、コミュニティの形成の問題点で、一番問題視されたのが、コミュニティの作り場が難しいという。それから、新しい生活をスタートさせるには連携がない。時間がとれない、格差、分散化しすぎるので個人主義が増加してくると。それから1人世帯、老人世帯の生活が大変危険だと。それから、時間が経つほどコミュニティ形成は難しく、意欲の低下。コミュニティの問題点で一番のイメージがかけ離れて想像が出来ないということで、新しい生活をスタートさせるには、連携がないと、コミュニティ形成が難しいということが出されました。それから、集まる拠点の必要性なんですけども、双葉町の場合は全国的に町民の皆さんが分散化されて、集まる場所が、大変厳しく難しいのではないかと。それで、ぜひ、全国から簡単にスムーズに集まれる場所を作って欲しいということが、出されておりました。それで、まずもって公営住宅の中に、小規模の集まる場所。避難先ごとに宿泊施設とか温泉があれば集まりやすいんじゃないかという話が出ました。それから、環境整備に関しましては、町外拠点をいわき市といわれておりますが、交通の便がちょっと環境整備の方で大変特に難しいということであげられております。それから心のケアということで、町に戻っても将来的な、子どもたちに町の将来は戻っても暗いのではないかと。中学生くらいになると、子どもの、小さい子どもは町においては生活がしやすいんですけども、中学生くらいになると心のケアは大変難しいのではないかと。それから、賠償金によっては不幸になって、いろいろ問題が起きているという話もしました。子ども達に、それから、放射線の話をするれば、今の心のケアというのは、今までなされた話が、全てゼロになってしまうという話が心のケアで一番問題になっておりました。

今、コミュニティと集まる拠点と環境整備と心の問題点を集約しますと、将来、何が一番拠点で必要かということが、双葉町に大事なかなということは、複合型の文化センターが是非双葉町の方にも出来れば、遠くから来た人も公益的に色々な多面的に使えるんじゃないかというふうに結論が出されましたけども、その中でも将来の二番目の復興を見据えた、復興に関してなんですけども、将来双葉町を復興させるに当たり、シナリオを作ってですね。

私の一番言いたいのは、多目的文化ホールを拠点として作ることも大事ですけども、企業を双葉町へ誘致しまして、産業を興しまして、最終的には将来の双葉町の復興が双葉町に戻れるスタイルを考えております。2つです。ここで1つあげてるのは、複合文化センターみたいな宿泊施設が今後のコミュニティの場として大変重要であると。それと、双葉町の今後の復興に当たり、企業誘致は、産業を誘致して、これから双葉町の人材が、若い人らが将来に向けて、将来の双葉町を復興させるには大変重要ではないかなと私なりに思ってます。大変ちょっと話の下手な話しましたが、2つのテーマで締めくくりさせていただきました。よろしくお願いします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい。じゃあ、お1人ずつ。お父さんから。

【川原 光義 委員】

時間が1分くらいでしょうから、あまり詳しいこと言いません。人間ね。人間は寂しいんですよ。男も女も。ですから、こういう風に避難すれば、美しかったふるさとを常に思い出すわけですよね。ですから、町長もいるんで、我々避難した時に各旅館に何日か避難しましたよね。だから、箱モノを作らなくてもいいから、今月の1週間は双葉町どうぞ、この温泉の〇〇旅館貸し切りだよ、そこで、郷土芸能でも、歌でも、カラオケでもあるいは、いろんな郡の親戚でも何でも集まって、そういうような大きな懇談的なことでできれば、素晴らしいコミュニケーションが出来るんじゃないかと。まず、人間寂しいんです。以上です。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい。ありがとうございます。

【福田 英子 委員】

私はですね。将来を見据えてとはなってますけども、やっぱり今現実も見ていただきたい。今現実があって将来がある物なので、その辺を、復興、復興だけを象徴的につていうか、想像で物語らないで、現実と少し並行して見ていってもらいたいと思います。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい。ありがとうございます。中谷さんお願いします。

【中谷 博子 委員】

すいません。私は一応子育て世代として、子どもたちが不安なく毎日のびのびと生活できるようにやはり周りの環境を整えていただくこと。避難先で生きることを決断した方たちに対しての経済面だけではなくて、色々な全体的なケアを是非していただきたいなというのがあります。それから、町外拠点がいわき市ということで準備をされていますが、2、3年後すぐ先のことでないので、その間のところで、きちっとスムーズにその辺が進められるように、今のうちからいろんな準備というものを環境整備というものを早急にしていただければなあと思っております。以上です。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい。ありがとうございましたAチームの皆さんありがとうございました。

[会場 拍手]

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

要領がなんとなく掴めて来ましたね。じゃあBチームの皆さんお願いします。

【松本 浩一 委員】

それではよろしく申し上げます。Bチームです。すみません、私は後半に、急にリーダーに決まった、松本です。よろしくお願いいたします。それでは全体的な話をさせていただきたいと思えます。総論的には、集まれるこのきずなの維持のためには、集まれる場所の具体的な条件整備が欲しいなということです。それから、それは今、以前の双葉町に対する思いをつなぐそれから、今、川原さんからありましたように、特に高齢者とか寂しいとありましたけれども、そういう人たちが具体的に集まれる場、それから、今後の子ども達が、双葉町に対しての思いをずっと持っていくような取り組みが必要だということになりました。具体的には、この辺にコミュニティ

てありますけど、この辺のことは先程の集まれる場。例えば、郡山市に双葉町の第2の拠点を作ると。それから、商工、商売の為の土地の確保、それから、いわき市にもコミュニティとして数か所、役場を中心にありますけれども、欲しいなど。それから、町民の意見を取り入れる。それから、資金を自由に使えるような団体、コミュニティも必要だなということが挙げられました。それから、それと関連しては、何でしたか、おもてなしというのがここにありますけど、今でしょとかおもてなしとか昨年度のキーワードみたいなんですが、双葉の人達のおもてなしの出来る双葉の人が運営する宿泊施設があって、そこで、郷土料理などを食べたら、うれしいなっていう話も出ました。それから、文化や双葉についての、継承ということになりますと、そのキーワードは子どもたちなんじゃないかと、私が学校勤務だから、皆さん気を使ってくれたんだか知れませんが。「学校だよ、学校だよ」ということで挙げられたのは、どんどんこれからの生まれてくる子ども達それから、幼稚園児、それから、乳幼児を、双葉の学校にどんどん入るようにします。また、学校では魅力のある取り組みを発信して、ここに、今年4月にスタートしたので、お互いに双葉のことを知ってということが必要なんじゃないかってことが出されました。そのほか、双葉町の民俗資料館の様な施設を建設するというハード面を。それから、伝承文化を次の世代に引き継ぐような場所、それに学校の取り組みも大いに関わってくるんじゃないかということも出されました。それから、健康問題なんかも出されました。被ばく手帳が欲しい。正しい知識、放射線を学ぶ機会が欲しい等もだされました。それから、医療。いわき市に人がいっぱいいるんですけども、大きな専門の病院がないので、なかなか心配だとか、それから、医療について今後どんどん便宜を図ってくれるような取り組みが欲しいな等ということも出されました。それから、こんなところかな。たぶん足りないところは、皆さんが「俺の言ったこと取り入れてくれなかつたでしょ」と言ってくれると思います。よろしくお願いします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

じゃあ、皆さんどうぞ。

【高田 秀文 委員】

高田と申します。私はですね、ここにもさっき出たんですけど、郡山市にも、第2の双葉の拠点というのを作って欲しいということをお話しました。郡山にも、復興公営住宅が約4か所。他町村と合同の公営住宅も含めると4か所あるんですね。郡山には第2番目、双葉の住民が約700名近くいると思うんですけど。そういった意味で県の中心ということもありますし、是非ですね、いわきだけではなくて、郡山の方にも、そういった双葉の第2の拠点というものを考えていただきたいという風に思いました。よろしくお願いします。

【横山 敦子 委員】

横山と申します。福祉に携わる者として今思うことですが、自立が出来ない方・生活再建が1人で難しい方に対するきめ細やかな支援、個別支援が必要な時期に来ています。安心して生活再建が出来るようなやさしい支援を関係機関と連携していくことが今大事です。もう一つは、おもてなしのところで、全国の双葉町出身の方が、いつでも戻ってくることが出来、ふるさと双葉町を味わえる場所が必要です。双葉の郷土料理を味わうことを味わうことが出来、歴史、風景や物語などが楽しめる施設「おもてなし」が出来るところを作っていたらと思います。話させていただきました。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい。ありがとうございます。じゃあ、千夏さんお願いします。

【岩本 千夏 委員】

岩本です。全体を松本リーダーがお話したんで、私2点言いたいことがあります。まず、1点目は復興公営住宅が建設されていきますけど、コミュニティを図るためにも、その場に集会場を設けて欲しいです。今実際双葉町よりは大きい都心部で、生活していて、公民館、集会場を利用させていただくんですけども、調理実習のスペースに調理台があるんですね、皆さんで集まって。そういった物を設けた、もちろん大広間もあって。そうすると今男性もお料理をするんで、男の料理作り教室とか、女性は女性で郷土料理の懐かしい味を作ったり、イベントごとにクリスマス、お雛まつりといった行事の料理を作って皆でいただく、場も欲しい。というのとあと、その集会所に小規模の公園を一緒に設置しまして、ちょっとした屋外でのイベントが出来るよな、そういう風な水回りも外にあったような施設が理想かなって思っております。あと、もう1点目は、今も既にそうなんですけども、やっぱり皆で集まって「どこかにお出かけしましょう」、「小旅行しましょう」とか、「勉強会に行きましょう」といった時にバスが欲しいんですね。各自治会、仮設、とかそういうところに、町が本当は1台くらいずつ、小さいバスでも各施設に集会所等に提供していただければって思うんですけど、そういうわけにもいかず、社協さんから、バス借りたりとかなんだかんだするんで、もし町で持っていただければ、それを、いつでも貸してもらえて形の交通手段的なものが欲しいと今思っております。以上です。

【石田 恵美 委員】

石田です。私は高齢者の皆さんのところ、私はまわっている仕事をしているので、高齢者の方がとても孤独感に襲われているのが、見てとれるので、その人達の孤独感を少しでも和らげるように集まる場所とか、集まって集える場所とかあればいいなと思っております。それが痛切な願いです。

【大橋 正子 委員】

最後になりました。大橋です。今、石田さんもおっしゃったように、私達民生委員として訪問して歩いてですけども。やはり高齢者、閉じこもりの人達なんかが多くて、どういう風にするば、参加していただけるのかなと思ったりするんです。その時に、やはり交通が一番です。あと拠点として、勿来、「ひだまり」がありますけれども、平方面の方に行くにしたがって、何箇所かあれば、高齢者の方も出て来れるんじゃないかなって思うし交通手段も考えていただきたいなということで、ここに出ていると思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい。Bチームの皆さんありがとうございました。大丈夫ですか。はい。ありがとうございます。

[会場から拍手]

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

じゃあ。Cチームの皆さん行きましょうか。

【小川 貴永 委員】

Cチームはそのタイトルをそのまま、「机上から現実へ」と付けさせていただきました。震災

から3年目ですし、あんまり、ちょっと眠いことも言ってもらえないということもありますので、こういったタイトルにさせていただきました、一番の将来的な提案としては、ご意見で出ましたのは、復興拠点の方ですね。復興拠点の方を充実させるということで、リトル双葉という表現をされてますけども、仮設住宅を中心として、老人が相互に助け合える共同生活の場、ちょっとイメージ的にはグループホーム的な物ですね。当然生活することになりますんで、商業施設も必要であろうと、言うことで。やはり独居の老人の方の生活のケアというのを大事に考えるとういうことで意見が上がりました。それと、浜地区の再生計画。これ4%の中の話なんですけれども、両竹浜野地区から除染を始め、復興の足がかりとして欲しい。癒しの場になる施設を作る。浜地区から復興の取り組みを始める。花なんかを植えて、フラワーロードっていう物を作ったらどうかと。これは土地というものをどう捉えるかっていう話なんですけども。我々にとって双葉町っていうのはただ単に土地っていうのは縦かける横だけの物ではなくて、我々の精神的なものの支えであるという視点から、やはり実際の線量がどうかと、そういう問題は現実にありますけども。やはり手がかりとして復興のシンボルとしてやはり、町内拠点というものも作った方がいいのではないかというご意見でした。それに関連して新しい双葉町を作る。ゼロベースとして考えて、一から計画していくっていう発想も必要ではないかと。そういうことです。それと伴いまして、若者の就労支援。私のような大変若い者に仕事を確保するというので、やはり生活基盤がなければ、生活実態というのが出来ませんので、当然就職支援、それと企業誘致なども取り組んでいった方がいいのではないかというご意見です。それと情報発信。これは町の方でタブレットの計画ありますけども、それを活用しまして、町民同士の情報交換ですとか、町と町民との情報交換を活発にやっていくというご意見が出ました。それと、子ども達への支援。学校が核となる町づくり。逆境に負けない子ども達への支援。双葉町の学校再開を望む。若い世代にも双葉の良さをきちんと伝えていく。これはちょっと現代的な課題になってきますけども、先程もちょっと話したと思うんですけども、自立力をつけていくと。これもともと、双葉町内で震災前は皆さん当然自立して生活されていた訳なものですから、やはり、その中として、双葉町民との交流は必要だか、そこだけにこだわらず広く地域でも、生活していけるようなサポートをする。避難先の住民とどのように交流を持っていくか情報が必要である。積極的な地域へのイベント参加も必要とするのではないかと。現在の課題としては、これまあ避難住民のストレスケア。これは大体、震災関連死のことなんですけども、実際、震災関連死の問題というのはありますので、そういうのは、一番やっぱり大事なことは、今日は町の会議なんで町民という言葉を使わせていただきますけども、やはり町民の生命と健康をいかに守るかっていうことが、近々の一番の課題だと思います。その中で、住民のストレスケア。これはやっぱり避難生活がどうしても長期化してますので、ストレスというのはどうしても溜まってきます。これが私も仮設の集会所なんかでも、様子がおかしいなどは思うんですけども、私も医療の専門家じゃないんですけども、それがちょっとうつ病なのかとか、アルコール中毒なのかとか、色んな専門的な症状ありますけども、素人では判別が出来ませんので、それを防ぐためにもやはり専門家の方にちょっと様子を見てもらうということもケアとしては必要なのではないかと思います。これは例えば週に1回とかですね、うちの仮設でも、郡山市の医療チームの方とかが、相談窓口というのを設けていただいているんですけども、やはりちょっとこういった精神的なものというのは自覚症状とういうのはないも

んですから、自分では気がつきづらいということがあって、ちょっと相談にも行きづらいっていうのがありますんで、それちょっと皆さんの生活している状態とか見ていただいて、ちょっと予防処置を先手で取っていくケアも必要ではないかと思えます。ちょっと厳しいですけど、取り組みが遅いとかね。こういった色々問題を自治会に丸投げしてはいけません。ということでございます。あとは中間貯蔵全般のことが話でございました。以上でございます。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

じゃあ、皆さん一言ずつお願いします。お名前もお願いします。

【齊藤 六郎 委員】

齊藤と言います。虎は我が子を強くするために谷底につき落とすという話がありますけれども。これから、双葉町を背負ってもらいたい若者にあえて発表させていただきました。これは本当に、我々やっぱり年配者、若い者に期待するところ大であります。本当これから頑張ってもらわないと困りますんで、相楽さん、それから小川さん、あとは福田さんとかそういう方々に頑張っていたきたいという、そういう思いもありまして、小川さんをお願いいたしました。実際にグループ活動をしてきまして、我々年配者と若い者とがやったわけですが、本当に頼りになる若い人たちでした。小川さん、上田さん、山本さん。このように出来上がったわけですが、いろいろ問題はありますが、放射能という大変厄介な物がありまして、我々グループ活動をして意見交換の中でもそれぞれ思いが違うんですね。要するに町に帰るにしても、50年100年かかるでしょうという方と、早く、そんな待てないと、10年耐えて、帰ろうという思いの人もおりました。とにかく難しい局面というのか、問題を抱えて、我々避難しているわけで、本当これからどうなるのかという思いが強いです。以上でバトンタッチします。

【岡村 隆夫 委員】

岡村でございます。私はちょっとA・B・Cと説明されたんで、まず、今やらなきゃいけないことはかなり現実的に出てきております。私はちょっとひとつ視点を変えて、やっぱりこれから2番のテーマにも移りますけれども、やっぱり今若い人に、または学校の子も達にやっぱり今のこれからの双葉町の問題点をやっぱり話して教育してほしいなと、教えてほしいなと思うのは、私実はこれリトル東京っていうあれを出したんですがこれは実は何年前かにアメリカのロサンゼルスにありますリトル東京。そこに結構日本人がいるからリトル東京になっている訳で、東京では無いんですけど、そこに富岡の方がおられたんですが、やっぱり私の故郷はやっぱり富岡だということで2年に一遍か3年に一遍来ては富岡で皆さんにお会いして、また色々なところへ行って自分の気持ちをおさえ、アメリカに帰ると。やはりそういう意味から言って早く双葉町の核を作るべきじゃないかと、そこへ帰って来れる所を作るべきだろうということをちょっと申し上げてこういうテーマを取り上げさせて頂きました。ありがとう。よろしくどうぞ。

【高野 陽子 副委員長】

高野です。先程Bチームからも出ましたし、今の小川さんからも説明ありましたが、すぐ双葉町に、故郷に帰れる訳ではありません。今は現在住んでる所で生活していかなければいけません。それには、自分の生活力をつけていかないといけないと思うんですが震災後は、どうしても他人に依存、町に依存、社協に依存、いろんな方に依存しているような状況が見られるように思います。双葉町にいる時は自分達で救急車も呼びましたし、何かの時は自分達で考えて自分

達で動いていました。もちろん支援はありましたが、現在の不慣れな地域でも自分達でも判断して動けるような情報や自立していけるような支援がこれから必要なんではないのかなと思っております。以上です。

【山本 真理子 委員】

山本です。ずっとふるさと。双葉町」の缶バッジを付けて来ました。復興への想いをこめて町民みんなで決めたものです。私たち復興推進委員会の委員は町民の代表でもあるので、ぜひつけていただきたいです。現在私は、郡山の方でお世話になっています借り上げ住宅で話せる知人も限られています。実際皆さんとお話ししてる時はちょっと明るく前向きなんですけど、アパートに戻るとやっぱり気持ちがどうしても沈んでしまうときもあります。やはり一人一人の繋がりが凄く大事だと思います。もし一人で寂しい思いをしてる方がいたら、声をかけてみんなで前向きに考えていければと思っています。以上です。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい、ありがとうございます。あっ、大丈夫ですね？はい、ありがとうございます。

[会場から拍手]

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

凄く皆さんの一言一言凄く良いコメントが多いですね。凄く熱い思いが伝わってきました。やっぱりその依存しすぎ、自立、次世代、きずなといった所、凄くリアルな言葉だと思います。ありがとうございます。お待たせ致しました。Dチーム、ちょっと前の方に致しますかね。

【相楽 比呂紀 委員】

それではDチームの発表に参りたいと思います。私達のチームでは岡田さん、田中さん、菅本さん、小畑さんという優秀な先生方がいらっしゃる中、一番頭の悪い若輩者の相楽が発表する事になりました。お聞き苦しい点があるかもしれませんが、どうぞお許し下さい。まず、私達のチームではコミュニティ形成をどうするかという事と、今後の双葉町の復興についてという2点を議題で話し合いました。皆様から見て下側の黄色い紙で書いてある方がコミュニティ形成で、ピンクの紙で書いてある方が復興について今後の双葉町についての結果です。私達のチームでは300ぐらいの意見が出たんですが、厳選してこれだけの数にさせて頂きました。まず初めにコミュニティ形成の方で場所の問題があるのではないかと。これは物理的に集会場が、今、南台の方に一箇所ありますが、いわきで言うと、いわきの他の地区には集会場が無くて、物理的に交通の手段が無くて行ける、行けない方も多いのでは無いか。中には出不精の方とかもいらっしゃいます、そういう方も余計足が遠のくのではないかと、そういう所を解決する為に、県内各地にコミュニティの場所、集会場などを作って欲しいという意見が出ました。続きまして、そのコミュニティに関してなんですけども、その集会場を作ったとしてもやはり中々出て来られない、そこにはいろんな理由があると思うんですけども、例えば、人としての好き嫌いがあるとか、中々内公的な性格を持っていて元々、双葉町に居た時にも出なかったという方は中々出にくいのではないかと。そういう方々の為にはやはりこちらから訪問する必要があるのではないかとという事で訪問という事が必要なのではないかとという事になりました。訪問する方というのは役職をお持ちの方、例えば菅本さんがやってらっしゃるような区長とか地元のそういう役職を持ってらっしゃる方が訪問して行って皆さんにお声掛けする事が大切なのではないかという話が出ました。次に今の話

に続くんですけども、参加できない、参加しない、集会場を作ってコミュニティ形成を段取りしても参加しない方が結構多いと思うんですが、その理由としましては、要因としましてはコミュニティに入りづらい、中々気持ち的な壁がある、何か縄張りがあるのではないかという想いがある、コミュニティの集まりに行った時にそこでは行政の悪口だとかそういうものを言う方が多くて、やっぱり入りたくはないという方もいらっしゃいました。ただ、その悪口もやっぱりはけ口として必要な場所ではないかという意見もありました。そういう意味で順番はちょっと先程の話にはなりますが、訪問しながら皆の意見を聞いていく必要があるのではないかという事です。続きまして私個人的に若い世代のコミュニティ。結構子どもさんとか高齢者のコミュニティが大切に、ということで私は結構子どもさんのコミュニティも大切じゃないかという意見を言いました。ですが、皆さんからのお話を聞いておきますと、コミュニティ、子どもは実際の学校に別の地区に行ってもコミュニティを作るのはすぐに出来る、もう子どもは天才だと、そのコミュニティについては。そういう意味ではやはり優先するのはお年寄りとか高齢者の方とかを優先するべきだという事です。

続きましてイベントとして、そのコミュニティ、今後、復興公営住宅が出来た時にイベントを開催したり後、各行政区のイベントを毎年1回開催する事が必要じゃないかという事です。その次に今の双葉町に対して、ついて、研究施設なんかも造った方が良くないか。これは後でちょっと説明するかどうか、こういう意見も出ました。就職についてなんですけども、いわゆるゆとり世代の方とか若者についてなんですけども、今賠償というのはやはり皆さんの権利としてもらう事は当然の事なんですけども、それを分かっている賠償を請求する大人の方ではなく、若い世代で何も分からずにお金が入ってくる世代についてはやっぱり意識改革が必要じゃないか、その意識改革をする為には必要性を感じさせる必要があるんじゃないか、それが就職に繋がっていくんじゃないかという事です。簡単に言います。今後の双葉町についての話として、今後の双葉町を語るにあたっては若い世代の意見を聞いていきたい。もう一つは残したい物として歴史的文化資産も残したいですけども、子ども達の記憶が薄れないうちに例えばDVDとかビデオなんかを作って今の現状を子ども達がどう思っているかというのを記録する必要があるんじゃないかという意見も出ました。一方、現実を見なきゃならない夢ある姿を描きたいのは当然ですけどもやっぱり現実をどう結び付けたら良いか分からないし、現実を本当にはっきりした情報が分からないので復興は中々難しいんじゃないかという意見が出ました。私こういう意見が出ると普通は平行線で話し合いにならないのが普通だと思うんですが、私達のチームの方々は今本当に人間が出来ている方々ばかりで本当にお互いの意見を尊重する会議になりました。私が言いたいのは、例えば他の地区、県外に住まわれる方とか双葉の復興かなっても、双葉以外に住まわれる方、そういう決断をされた方、そういう方々の意見も尊重する必要があるのではないか、そういう尊重をしていけば必ずなは永久に続くのではないかというふうに私思います。以上です。ありがとうございました。

#### 【岡田 常雄 委員】

岡田です。私がひとつだけ言いたい事があります。これは双葉町の将来像を考えた場合に少子高齢化対策というものが必要ではなからうか。今から20年後には30%、20代30代の若者が消えていくというふうな新聞に今朝でておりました。従って若者が双葉町で働く姿というのは、結

局、双葉町の行政を存続させる根本ではなかろうかと思えます。従って私は、将来像に渡って双葉町工業団地そういったものの誘致をして頂きたい。そして若者が他の都市に行っても帰ってきて、ここで働ける状態、環境を作ろうではなかろうかと、こんなふうに思います。つまり、若者が働く姿というのは非常に尊いものです。そして、そこにはお子さんがおりますし、お子さんが学校へ入る、そうすると学校の人口も増えるという事になります。つまり若者を取り戻す、そういう施策というのが必要ではなかろうかと思えます。そういった事を双葉町の将来像にひとつ大きく入れて頂いて、働く、そして経済が活性化する、そして双葉町の税金も入る、それが双葉町の存続に繋がるのではなかろうかとこんなふうに考えて、その事ひとつだけ私は申し上げておきたいと思えます。ありがとうございました。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

ありがとうございます。菅本さんお願いします。

【菅本 洋 委員】

私は、津波にあって、全壊した浜野地区の区長をしております。こういう会議に出るのは正直言って初めてなんです。大変と意味深いものを感じました。そこで私としてはこんだけのAからDまでのいろんな目標があるんですけども、これを実現させる為にはテーマの2番の一番上に書いてある、町民の今後の暮らしというこれが一番の基本じゃないかと思うんです。その基本を国の方は中間貯蔵問題で30年っていう長きの目標を立てていながら、私どもに関しては後2年と10か月で6年なんです。それ以降の見通しが何もつかない。これではいくら立派な物があっても、描いたとしてもただの絵文字にならない様に国の方で少し考えてほしい。これが1番の私の願いです。それと先程、相楽君からもあったんですが、研究所という事なんですけども。これは、やがて研究材料として原子力発電所、太陽エネルギー、水力発電、地熱発電です。これが福島県に全部あるんですよ。やろうとすれば。そういう物を宝として有るわけですよ、福島県には。ましてはそのつくるという事に関しては、特に原子力に関しては教材として有り余る教材があります。廃炉に関して、放射能に関して、廃棄物に関して、中間貯蔵にしてもこれ宝の山ですよ。これを見ず見ず別な所で、研究させるなんて言うよりも、今度浜野地区が除染する訳ですよ。太陽光発電をつくるために色々問題があるかと思うんですけども、こういう土地を少しでも利用して。そういう物をつくって、やがて私共の子ども、孫達が20年後、30年後にこういう学園が、研究所あったならば、そこで学力のもの凄い高いレベルの教育ができるんじゃないかと私はそう思うんです。それで是非ともこれは国の方でお考え頂いて、是非ともお願いしたいという風に存じます。以上です。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

はい、ありがとうございます。じゃあ田中さん、熱い思いを。

【田中 勝弘 委員】

田中と申します。私は福祉を代表するという事で参加しております。そんな関係で、そういった視点でちょっとお願いという事なんですけども。こちらにもちょっとあげておいたんですが、コミュニティ形成という事で今私達社会福祉協議会なんです戸別訪問しております。その中で1番多く町民の方から意見があがるのは、やはりコミュニティの交流の場が少ないという事が1番多くあげられております。そんな事もありまして私達や若い世帯は、色んなツールを使ってコ

コミュニティ形成は可能かと思います。ですから子どもさんや高齢者の方、この方達が避難されている地域で、安全に楽しく生活できるために、コミュニティの交流の場っていうものを一日も早くつくって頂きたいというふうに思いますので、この場をお借りしてお願いを申し上げたいと思います。以上です。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

ありがとうございます。

【小畑 明美 委員】

小畑です。今日と、あの話しあいであく強く感じた事は、私も子育て世代って事で、タイトル通り「頑張れ次世代」っていう事で今現在も問題が山積みの中で色々と皆さん頑張っているわけなんですけども。後世に何をどのように残していくか、そして将来の子ども達のがのびのびと生きて、どの様に生きていくかを今から少しずつ、ひとつひとつ議論しながら復興に向けて一生懸命やっていかなきゃいけないなって凄く今日は強く感じました。以上です。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

Dチームの皆さんありがとうございました。

[会場から拍手]

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

それでは皆さんに発表して頂きました内容を集約致しました物を、こちらにまとめております。こちらの方をちょっと説明させて頂ければと思います。じゃあ、金子先生お願いします。

【ファシリテーター 金子 和夫 氏】

今のお話しを伺っておましてまとめてみたんですけども、現在の暮らしから将来の像と、こういう「現在から将来へ」っていう縦の流れと、もう1つは横でこの色々な悩みっていうのを書いてみました。現在の暮らしでは、まずそのコミュニティ形成が大事であるという事ですね。復興公営住宅とか住宅の整備から進んでお互いのその助け合いとか、そのためには連携が必要だ、住宅から集会所の充実へ広げる。それから参加行事に積極的に呼び掛けていき、来られない人については訪問も必要だ。こういったコミュニティのきめ細かな対応が求められてきたというふうに思います。昨年の町民会議ではまずは住宅という所とか集会所っていう議論でしたけれども、それがより深くなっていると思います。それと共通してでてまいりましたのが、集まる拠点づくり。拠点というものは集会所と住宅だけではないよという事で、これが小規模である程度広い、例えばいわき市の中でも2か所とか、郡山などを始めとして複数あると良いという事でした。それとそういった所に例えば町内の商工事業者の方が、商売ができる様な商工用の土地とか建物が確保できないだろうかというのも1つの、これから働いていくためのきっかけづくりとしてこの拠点づくりに求められているというのが非常に前向きな発言だと思いました。一方、情報発信とか交通の問題は昨年の町民会議から引き続きでていたんですが、これはこれで既に取り組まれていると思いますので、今回はそんなに強くでてなかったと思うんですね。

もう1つ非常に共通して感じられたのが、心のケア、自立支援、若者の意識改革というまさに立ち上がろうとする人達に対するきめ細かな、人に対するケアだと思いました。これについてはこの心のケア、自立力、生活力という言葉がでていましたけれども、未来に向かって立ち上がろうよという事が非常に大きい。じゃあこれをどうやっていくのか。これは少しまた議論していく

べきだと思いました。

さて、こういう中でもう1つコミュニティ形成の中で、子どもが未来の双葉の担い手ですので、高齢者のことも大事なだけでなく、子どもの育成も大事だによって事が共通してでていて、学校を核としたこれからの双葉を担う世代づくりっていうんですかね、またどっかのグループでは学校から色々情報発信しようよという提案もあったかと思うんです。学校が重要だということですね。

それからリトル双葉という言葉も、集まる拠点としてまさにリトル双葉として県内外に、あそこに行けば双葉の人に会えると、こういうあり方を提案されていると思いました。

さて、ここから未来を考えるということについては、未来を考えるというのは難しいよ、なぜならば前提条件がもう少し考えたいというグループや、どんどん可能性を考えたグループもあって、ここは凄くわかれているなというふうに思いました。つまり今、委員の皆さんも復興、将来像については非常に認識とか議論の前提がばらばらなんだなと思った次第です。ただこの中で出てきていたのがやっぱり町全体というよりまず町の核づくり、町の顔づくりから始めよう、その真ん中にあるのは、おもてなしと、文化の伝承じゃなかったでしょうか。非常に大きな町ができるとか、何か大きな建物ができるといよりは、双葉の心とか、それから双葉の知った人を迎え入れるというそういう場を双葉町にまずつくるんだよというところが重要じゃなかったかと思います。そしてこの施設というのは文化とおもてなしと全国の双葉の人が集まれる複合型の文化センター的なものっていうんですかね、こんな様なイメージであったと思います。ここから町づくりが再び始まる、それと若者達に期待して、若者達を育て、彼らがやがて双葉で働けるために企業誘致とか研究所も含めた未来志向で、ゼロ発想で色んな事を考えていこうよと、これが大きかったと思います。そうすると若者の研究機会とか就業機会という未来に繋がる物、生まれてくるんじゃないかというところではなかったかと思います。以上、その現在の暮らしの課題と、未来へのこの取掛かりっていうのをちょっと整理してみました。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

ありがとうございます。それでは町長と間野委員長に是非全体の感想をお伺いしたいんですが、今までのA、B、C、Dと、こちらのまとめを踏まえて、まずは町長お願い致します。

【伊澤 史朗 町長】

第7回双葉町復興推進委員会、本当に御苦勞様でした。今まで6回の委員会と違いまして今回は座談会形式のワークショップという事で皆さんから、AチームからDチームまでの様々なご意見を伺いました。その中で私として感じた事、そして皆さんからお示し頂いた事に対して感想を申し上げさせて頂きたいと思います。

まずAチームですが、まずコミュニティをつくる場所が難しいというお話しでございました。これはまさにその通りです。39都道府県、全国386の市区町村に町民の皆さんが分散して住んでいる状態です。そういった中で町としてそのコミュニティの核になるもの、どのようにつくっていったらいいか。そういった意味では福島県の4か所、いわき市、郡山市、白河市、南相馬市の4か所に復興公営住宅を町として県に要望しているところです。その4か所につきましては概ね建設が可能だろうというふうに町としては思っております。特に福島県内に4,000人以上の町民の皆さんが戻ってきている現在で、その核になるのは、今現在いわき市に1,800人町民が戻っ

てきておりますので、役場がある、そして4月に再開されました幼稚園、小学校、中学校が3年ぶりに何とか再開を果たす事が出来ました。これは東邦銀行錦出張所のご好意により、その場所を仮校舎としてお借りして今現在確か12名です。今月、来月に2名から3名の生徒が増えるというふうな報告を頂いております。徐々に双葉町の子ども達が魅力ある学校という事で戻ってきているのではないかと、そういう様な事で子ども達に対しても学問を提供できる、双葉町の将来を担う子ども達のためのようやく基礎が出来たというふうな気持ちを持っているところであります。全国から集まる場所をつくってほしいというふうなお話していただきました。これにつきましては4か所の復興公営住宅をつくった場合それぞれに集会場って事は町としても県の方に要望を出しているところですが、とくに中心拠点になるいわきの復興公営住宅につきましては、まず医療施設、介護施設、商業施設、そして先程集会場をつくって欲しいといったお話しがありました。集会施設だけではなくて、全国から集まってくる町民の皆さんが集まって色々な対応できる、そして懇談しながら宿泊もできるような施設を今計画してその取り組みを国、県に交渉しながらやっているとございます。そんな中で将来的には企業誘致、帰町、そういった様な問題も出てきますが、まず町とし今何を一番先にしなくてはならないかと言うと、今現在町民の皆さんがこれだけ分散してしまっている状況を如何に集約に向けて対応できるかと、なるべく町民の皆さんに少ない場所というか、複数ではなくできれば1か所、そういう風な場所に寄り添って集まって頂く事が1番町としても町民の皆さんの色々なコミュニティや今問題提起されたものに対しての対応ができるのではないかとこのように考えております。ただ3年が過ぎてしまってこれだけ避難状況が長引いてしまった事によって、それぞれの生活環境が変わってしまっている。そういった事を考えますとそれを1か所に集約するとなりますと非常に困難だろうと、そういった意味からとりあえず県内では4か所拠点になる物を考えているとそういうふうな考えでございます。将来的には双葉町がご存じの通り4パーセントの避難指示解除準備、96パーセントの帰還困難区域という事で、4パーセントの避難指示解除準備区域に関しましてはようやく除染計画がまとまってくると、そういう風なかたちでありますのでまず除染を先行してやる、そして96パーセントの帰還困難区域をこのまま黙っておく訳にはいきませんので昨年は3か所、皆さんご存知の双葉幼稚園、健康福祉群でありました厚生病院、特別老人ホームのエリア、そして線量が一番高いと言われている山田地区の農村広場の3か所をモデル除染した訳でございます。そういった中でそのようやく環境省の方からも、その実証試験のモデル除染の結果の報告がありました。概ね、相対的に詳しい話はちょっと難しいんですが、「60%から、70%の除染効果があった」とそういう風なお話もいただいておりますので、双葉町にとって将来戻る可能性はでてきたのではないかとそういうふうにご考えているところです。そういったもので、いろいろな問題は多々あるかと思いますが、町としまして、1つ1つ確実に取り組んでいく、そういうふうな心構えでございます。川原さんからは男も女もやっぱり寂しいんじゃないかと、これ全く私も同感であります。そういった中で、どういうふうなそういう風な孤独感、中には引きこもりの方もおられますが、そういった方の対応、対策をしていくかっていうのが、これは喫緊の課題だろうと。そういったことで町としましては生活支援課、健康福祉課が、両方の課にまたがりまして、保健チームということで、各仮設住宅、借上げ住宅、保健チームの保健師はじめ、看護師も声掛け、そして回って、そういうふうな引きこもり対策、対応等もしているのも現状でございます。また社会福祉協

議会もそういったものでいろいろな対応をしている、そういうふうを考えています。ただ、全ての皆さんにそういった対応ができていくかというと、先程申し上げましたように、386もの全国の市区町村に分散して避難している状況で、その対応が非常になかなか難しいというのも現実です。そういった中でも、少ないながらも一生懸命取り組みをしていると。全国からは、富山県黒部市、茨城県かすみがうら市、新潟県柏崎市から職員の派遣をいただいている現状です。経済産業省から3名の職員も派遣をして、そして双葉町としましても復興の為の復興支援員をお願いをして、それぞれの各自治体の立ち上げや、そしてコミュニティの場にも参加していただいて、その対応をしてもらっている現状です。そういった中から、この川原さんからご指摘ありました、ものに関しても、少しずつ対応できて行くのではないかなというふうな感じを持っております。福田さんからは現在のことも考えるべきじゃないかと、未来も大切ですが、今現在の対応をどうするか、今まさに、先程申し上げさせていただき中に、ある程度の答えはできているのではないかなというふうな感じを持っております。中谷さんは子どもさんの世代、いわゆる学校世代の人達が、いろいろな避難先で学校に行きながら、その対応、双葉町の子どもとしてどういった自覚を持てるか、どういうふうな町としてのサポートができるかということも含めてその取り組みを今考えて行かなくてはならないと思っております。

Bチームの「復興、今でしょ」まさに今だと思っております。今年年頭の挨拶で、復興元年にしたいということを私挨拶の中で申し上げております。まさにそういった意味では、今年4月に学校再開も果たし、今後復興公営住宅がどんどんと実現に向けての対応ができていく、そういう中から、まず、今現在の町民の皆さんが借り上げ住宅、仮設住宅の人達に対する、今後の生活するためのケアをしていける状況にしていかななくてはならないというふうと考えております。ただ、一方ではなかなか用地の取得が県対応でやっておりますので、非常に難しいという現状もございます。そういった中で、今日、確か新聞の方で報道されておりますが、平成28年3月まで、仮設住宅、借り上げ住宅の延長が決定をされております。そういった中で、なるべくそういった先のことではなくて、近い将来に復興公営住宅の早期整備をもっともっと強く声をあげて、県の方には対応していただくように取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。こちらの方でも集まる場所、町外拠点、復興公営住宅、そしておもてなし、学校等の問題、こういったようなことも先程申し上げた中で、関連していることがあります。その中で、文化、健康につきましては、伝承文化をどういうふうに残していくか、そして、健康については被ばく手帳という風なご意見もありました。今、双葉町では健康手帳というものを発行しまして、他の町村に先駆けてその取り組みはしているわけですが、もっと、もっと、皆さんのニーズにお応えできるような取り組みを考えていかななくてはならないと思っております。以上につきましては、いわき市に関しまして言わせていただきますと、緊急病院の対応、二次医療、三次医療につきましては、非常に今厳しい状況になっているというのは、先般いわきの清水市長とお会いした時にそういう話を受けております。双葉郡から23,000人の被災をした人たちが、いわきに今住んでいる状況で、非常に医療の煩雑、そして医療が大変に厳しい状況になっているというのも伺っておりますので、いわき市としては、そういう救急医療の対応を今後双葉郡の被災している町村と共に、国、県に働き掛けをしていきたいということもございますので、このことに対しては、私達も積極的にかかわって、いわきと共にお世話になっているところにも、だけで

なくて我々もお世話になるし、いわきの人達の為にも、その取り組みを進めていかななくては思っております。高田さんからは、郡山市は双葉町の町民の2番目に多いエリアですので、第2の拠点をつくっていただきたいというふうなお話がありました。まさに、郡山市だけでなく、それぞれの場所で、そういう風な拠点づくりっていうのは考えなくてはならないんですけど、先程から申し上げておりますように、あまりその分散化が進んでしまうと、町としてのいろいろな機能維持っていうのは厳しい状況になるっていうこともご理解いただきたい。そういったことなるべく、集約に向けて対応しなくてはならないっていうことと、ただし、それだけ3年も経ってしまって分散化が進んでいる人達のこと、考える為にはそういった対応を考えなくてはならないっていうことも重々理解をしているつもりでございます。郡山では、特に今、私感心しているのは、県中自治会の皆さんが一生懸命対応されて、絆カフェ等々の町民のコミュニティの場を提供していただいている。そういうふうな現状もございますので、今少しそういったことでの対応を強化できるような取り組みをどのようにすればいいかってことも考えていきたいと思っております。横山さんからは、自立生活再建、ひとりひとりの支援の対応、やさしい支援ということでお話がありました。まさに、ひとりひとりのこういったものに関しては、一番問題になってくるのは、高齢者の一人住まいの方、そういった人たちの対応をどういうふうにすればいいかっていうことになってくるのかなというふうにご考えております。先程申し上げましたように、町としましては、社会福祉協議会をはじめ、生活支援課、健康福祉課の対応にかかわって来るんだろうとそういうふうにご思っております。岩本さんからは、復興公営住宅の中に集会所をつくると。これはまさに、各復興公営住宅の中の集会所に関しては町としても要望していかななくてはならないと思っておりますし、それは今後、県に対応の取り組みを強く働き掛けをしていきたいと思います。そして足の無い人、交通の便っていうか、交通弱者の人達の為、バスの対応ということでしたが、ご存じの通りそういうものに対しても、今現在では2台のバスをフル活動しまして、いろいろな自治会とか要望のあったものに対しては、町としても最大限配慮をして対応している現状でございますので、ご理解いただきたいと思っております。石田さんからは、高齢者の孤独感を和らげる場所ということで、まさにコミュニティの場所になるのかなと。集まれる場所で、いかにお年寄りや孤独感の強い人たちが、集まってもらえるような取り組みをするかということだと思っております。大橋さんからも高齢者の引きこもりや閉じこもり対策、交通の対応手段ということのご指摘がありました。まさに今まで考えていることに対して、取り組みをもっともっと強化しなくてはならないと思っております。

Cの机上から現実ということで、復興拠点の充実、リトル双葉と。これまさに、イメージとしまして4か所の復興公営住宅だけではなくて、いわき市にほとんどの中心的な機能が集約するような方向性になってきているということをご考えますと、いわき市南部に計画をしております復興公営住宅が、ある意味、双葉の、リトル双葉ということになるのかなと思っております。そういった中にも、グループホームや介護施設等々ということではありますが、まさに介護施設はその復興公営住宅の中に取り込むべき付帯施設だということで、国に要望をしているところであります。特にいわき市では、双葉町にありました、特別養護老人ホームせんだんの再開を今一生懸命取り組んでいる状況でございます。そういった中で、双葉町の町民だけでなく、双葉郡から被災している人たちの為にも、絶対必要なものだろうということで、ようやくいわき市の方とも、なかな

か調整うまくいってなかったのも事実ですが、ご理解をいただいてその取り組みがようやくスタートし始まろうとしているところです。浜野地区の再生、両竹浜野の除染をするということは、先程申し上げましたように、除染計画もできておりますし、今後その除染をただけではなくて、津波被災地の取り組み、震災祈念公園等、また再生可能エネルギーの取り組み、そういったものの対応がどこまでできるかということの検討には入っておりますし、その取り組みが現実できるかどうかも含めて、検討しているところであります。新しい双葉をつくるゼロベースから考えるというのはまさに今、双葉町には3年間戻れない状態で、非常に今現在の施設、建物をすぐに復活させるというのは非常に難しいことでもありますので、除染も含めて新たに考え方を逆転の発想ではないですが、スクラップアンドビルドという言葉もありますように、まっさらにして新たにつくり上げるといことも1つのアイデアになるのかなというふうに考えております。これは当然住民の皆さんのご理解がなければそういったこともできませんし、96%の帰還困難区域をいかに国の方で交渉して除染をしてもらうか。これは非常に国としての方向性は帰還困難区域に関しまして、除染をするというふうな積極的な考え方はありません。ですが、その考え方ではなくて、双葉町に関しては特殊な状況でありますので、今後除染に対して双葉町の全然手を着けないところでも、自然減衰で非常に予想よりも線量が下がっている地区があります。双葉町でも独自に線量の測定をしております、かなり下がっている地域がありますので、国と協議をしながら、そういったところをポイントとしてどうとらえていくかということも、今後国との交渉になってくると思っております。そのことに対しては、今現在ようやく国との交渉も始まったばかりで、どこまでできるかも含めて、今一生懸命取り組んでいきたいとそういうふうに考えております。齊藤先生からは、放射の対応等々。岡村さんからは、若い人、学校の子も達に今の双葉町を知ってもらうというふうなお話でございました。まさに教育の充実ということだろうと思います。高野さんからは、双葉にはすぐには戻れない状況で、まず生活力をつける、情報をいろいろ入れることによって、情報を我々も提供できるようにすることが大切でしょうし、今現在、毎月、町の広報、そして災害版ということで皆さんのお手元に配布物を出している状況ですが、まだまだ情報が少ないというご意見もありますので、今回は今年予算をとっておりますタブレット端末でなんとか皆さんに情報を双方向から共有できるような取り組みをしていきたい。そういうふうに考えてあります。山本さんからは、ひとりひとりのつながり、孤独感の解消というお話がありました。全く先程から申し上げている通り、そういうふうなものの解消の為に、いかにコミュニティを充実させるかということになってくるのではないかと考えております。

最後になりますが、Dの頑張り次世代、コミュニティ形成、集会所、これはかなり前にお話したものと関連がございますので、割愛をさせていただきたいと思っております。イベント、各行政区のイベントを年1回ずつというふうなお話ありました。これはあの、勿来に計画をしております、復興公営住宅の中に、お祭り広場というものも一応プランとして立てております。双葉町の300年以上続いているダルマ市等もできるような広場もその場所につくると。そういうふうな構想を持っておりますので、町が町民の皆さんがやはり一所に集まれるような環境というのが、つくれるような取り組みが必要ではないかというふうに思っています。あとは、なるべく引きこもりとか、孤独感とか、集会、集まれる為の取り組みをしなければならない、というご指摘がありました。ただ、双葉にいた時も、でてこない人はでてこないし、一人で行動する人は行動するという

ふうなこともありましたが、それでも何とか訪問しながら、その取り組みを強め、町民としての交流、きずなの維持をしていかななくてはならないだろうというふうに考えております。就職、賠償、若い人の意見を聞いて、いろいろな対応をするそういうふうなことはまさにその通りでありますし、今の子ども達が双葉町の現状を分からない状態で育ってしまったのでは、町の思いというのが薄れていくだろうということで、なるべくその子供たちに、そういった情報共有ということでDVD等をつくってみてもらうと。これは非常にいい考えだなということで、なんか対応できるのではないかと考えております。岡田さんからは、少子高齢化対策として、雇用、工業団地の環境をつくると。これまさに、双葉町に戻ってからの対応になると思いますが、戻れるような環境にするために、今現在一生懸命やっているところでありますが、それがいつになるのかというのは、現実的に非常にその期間の明示というのは難しいことでもありますし、私としましては町長就任以来、国の方に帰還目標の明示ということはずっと訴え続けておるところですが、なかなかその明示がされないのも現状であります。菅本さんからは、いろいろな津波被災地域の今後の復興の為の対応、エネルギーに関しての考えをお示しいただきました。太陽光発電、原子力、地熱、またそういったものに係わる廃炉、中間貯蔵施設そういったものは全てあるので、そういうふうなものの施設の取り組み含めて、研究施設ということで考えてはどうかというご指摘だったと思います。まさにそういうことが、双葉町が残っていけるものになるのかなと、そういうふうに我々も考えてございますので、国に対しても、そういうふうな要望活動をしていきたいと、そういうふうに考えております。田中さんからは交流の場が少ないというお話でありましたし、そのことに対しての対応も今、先程来から話している通りであります。小畑さんからは後世に何をどのように残すかということで、これまさにアーカイブだろうと思ってますので、そういった取り組みを今後していきたいと思えます。それぞれの皆さんの、それぞれのいろいろなご指摘に対して重複しているものもございしますが、できる限り対応していきたい、そういうふうと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

町長ありがとうございました。では、間野委員長お願いいたします。

【間野 博 委員長】

今、町長からすごいきめの細かい総評がありましたので、僕の方は簡単に済ませたいと思えます。今日は最初からずっとお付き合いさせていただいて、そのワークショップの雰囲気もずっと見させていただきました。実を言うとこのワークショップ方式でこの委員会をやることに関しては、非常に不安を持っておりました。うまくいくかどうかというのを心配してたんですが、すごい活発な議論ができて、本当に良かったなと思えます。この方式をとって本当に良かったと思ってます。本当はもう少し広い場所で、やりたいところがなかなか狭くて、隣のテーブルの音がずいぶん聞こえたりとか、というようなことがあったかと思うんですが、やはりそれぞれのチームの議論に皆さん集中されているなというのを見ていて思いました。これでなんとなく先が期待できるなと思っているところです。まず、今日の議論の中身で言いますと、この4チームのタイトルを見ると、それだけでもよくわかる。「今を見つめて未来を語る」、「復興今でしょ」、「机上から現実へ」、「頑張れ次世代」。なにか、今日の全体の議論すべきことと、それからそれに対する皆さんの、気持がタイトル見ただけでもよくわかるなというふうに思いました。いわゆるコミ

ユニティ形成のことに關しましては、実を言うとこれまで、第一期提言に向けての議論で、ずいぶん議論してきて、それを踏まえて町が、事業計画というのをつくって、それのご披露もあったわけですが、やはりまだまだいろんな課題があって、それにきめ細かく対応していかなくちゃいけないんだということがよくわかりました。これに関しては、前回の委員会でも、お示しましたように、次回の27年度の事業計画をまたつくりますので、この間ご披露したのは26年度の事業計画なわけですね。27年度、来年から3年ぐらいかけて何をやっていくかというところで、今日の議論を踏まえて、追加すべきことを追加していく、修正すべきところを修正していく、というようなことが必要になるかなと思います。それから①の将来像ということですが、こっちの方がよりさらに私自身は不安に思っていて、議論がそもそもできるのかなと思っていました。確かにやはり非常に難しいということが、それぞれのテーブルからも聞こえてまいりました。しかし、その中でも、1つ非常にキーワードとして大事だなと思ったのは、双葉町という場所とか土地というふうに小川さんが表現されていましたが、この双葉町の土地というものが持つてくる意味というのは、例え町外で新しい生活をして、絶対それは必要なんだと。その故郷である双葉町という土地を、どうするのがいいのか、ということに関してはやはり皆さん感心を持たれているなというふうに思いました。その中で、今日だけでも3つありました。1つは、文化をいかにちゃんと残して、歴史文化ですね。これを継承していくという場をつくるべきだと。それからもう1つ、教育ですね。教育をちゃんとすることができないと未来は無い、ということ。それともう1つは、産業、企業、それと繋がる就業の場ですね。これを、将来の双葉町の故郷にちゃんと確保しなくちゃいけないんだということが、今日の議論の中で出ていました。これをちょっとベースにして次回以降、長期ビジョン、将来像に関する議論が、可能だなというのを確信しました。ありがとうございました。

【ファシリテーター 林 聖子 氏】

間野委員長どうもありがとうございました。

【間野 博 委員長】

ちょっと、ここから委員長としての発言になりますが、ちょっと時間が、予定の時間過ぎてしまっておりますので、質疑、応答というのはもう省こうかなという気がしているんですが、いかがですか。いずれにしても今日が始まりで、今日が終わりではありませんので、今日の、当然のことながら、それぞれのチームごとのズレなんかもありますから、当然それはこれからの、引き続き行われるワークショップの中で更に進めていったらいいのではないかという気がしますので、今日のところはここで委員会としては終わりにしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

## 6. 閉会

【間野 博 委員長】

それでは、これで今日の委員会を終わりにしたいと思います、事務局の方から何か。

【事務局 細澤 界】

はい、では時間押してはありますが、事務局の方から若干お伝えする部分がありますので、お時間をいただければと思います。次回の委員会なんですけれども、次回の委員会については6月

26 日の木曜日を予定しております。次回については、長期ビジョンにかかわる部分を皆様方にご議論いただくという形で同様のワークショップ形式にて引き続き開催していく予定でございますので、よろしくお願いしたいと思います。委員の皆さん方にはお忙しいところで申し訳ないんですけども、引き続きご出席を賜りますようお願いしたいと思います。最後に連絡事項としまして、今回最初の時点で参考資料としてお配りしました、第 5 回目までの議事録なんですけども、これにつきましては、今後町の方のホームページの方に掲載することで予定しておりますので、あわせてご了承願いたいと思います。はい、以上事務局の方から説明終わります。

**【間野 博 委員長】**

はい、ありがとうございました。本日予定しておりました議題の方については以上で終わりたいと思います。これで本日の委員会終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

# 第7回双葉町復興推進委員会座席表(グループ発表・全体討論)

(敬称略)

1 日時 平成26年5月29日(木)  
13:00~16:30

2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室



復興庁  
佐藤 弘之  
企画官  
復興庁  
石川 悟  
参事官補佐  
復興庁  
福島復興局  
須田 亨  
参事官補佐  
福島復興局  
いわき支所  
芳賀 克男  
所長  
福島県  
避難地域復興課  
根本 朝彦  
主査  
福島県  
生活拠点課  
渡邊 隆幸  
主任主査

猪産 狩業 建設 浩設 課長	山税 本務 課一 長 弥	平秘 岩書 広報 弘課 長	船総 来務 課長 丈夫	武総 内括 参事 裕美	伊町 澤長 史朗	間委 野員 長博	半副 澤町 長浩 司	半教 谷育 長淳	松住 本民 生活 英課 長	志生 賀活 支援 課長	大健 住康 福社 宗重 課長
----------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------------	----------------------	----------------	----------------	---------------------	----------------	---------------------------	----------------------	----------------------------

事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)		
小支 山援 員勲	由支 波援 員大 樹	西主 牧事 孝幸	橋主 本查 靖治	細課 澤長 補界 佐	駒課 田長 義誌	今教 泉総 祐務 一課 長	山議 下会 事務 正局 夫局 長	半會 谷計 管安 理子 者	山副 下主 查明 弘	伊支 藤援 員壽 紹	山支 中援 員啓 稔